

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			すまいるの施設を建設する際に、標準以上の部屋の広さを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			強度行動障害の研修修了者も配置しており、個別の対応が取れるような体制を整えている。また、保育士、教員免許などの資格を持った職員も常勤している。また、離職率を減らすために働きやすい職場作りと、研修の機会を設けている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			建物の入り口は階段もあるがスロープもありバリアフリーになっている。1階は全てフラットになっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			支援前、支援後は掃除・生理・消毒をしている。また、支援中も子どもの姿に合わせてバーテーションなども使って空間を作っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			和室などで個別に対応できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			定期的に法人の会議や事業所ごとの会議などを行っており、現状と課題について話し合う機会を設けている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			毎年12月頃に保護者アンケート調査を行い、アンケート結果をもとに改善できる箇所や保護者の意向等について会議でも話し合っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			意見を出しやすい環境作り心がけている。年に1回は面談の時間も設けて、意見などを聞いている。	
	9	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			令和7年3月にホームページにて公開する。また、公開したことを保護者に周知できるように全保護者にメッセージにて公開を知らせている。	
	10	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			○		現在は行っていないが、今後の状況に応じて選出していく。
	11	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			法人内研修を定期的に実施している。法人外の研修にも各職員に積極的に参加してもらっている。	
適切な支援の 標準	12	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			HPにて公表している。	
	13	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等ディサービス計画を作成しているか。	○			初利用までの見学時や契約時に利用者や保護者のニーズや課題を聞き取っている。また、アセスメントシートを用いて細かなニーズなども聞き取った上で個別支援計画を作成している。	
	14	放課後等ディサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			ケース会議をしながら職員間で意見を出し合っている。	
	15	放課後等ディサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			情報共有をしあい、日々の支援に繋げている。	
	16	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			脳バランサーを導入し、言葉の読み聞きや空間認識、記憶力など様々な項目に取り組み、利用者一人ひとりの苦手・得意分野を把握し、個別療育に反映している。	
	17	放課後等ディサービス計画には、放課後等ディサービスの提供すべき支援の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			個別支援計画にも記載し、日々の支援にもつなげている。	
	18	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			活動内容を現場の職員と児発管が一緒になって検討している。	

供	19	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			活動内容の記録を残すことで、振り返りをしながら活動内容を展開している。また、曜日ごとに固定化しないように配慮しながらプログラムを組み立てている。	
	20	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			季節ごとの行事やイベント、子ども達の声を聞きながら活動プログラムを設定している。また、長期休暇ならではの活動も取り入れている。	
	21	子どもの状況に応じて、個に応じた活動や活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか	○			職員間で話し合うことで、それぞれの職員の視点から子どもの状況を把握しつつ、それに伴った個別支援計画が作成できるようにしている。	
	22	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			必要に応じて、事前に活動計画書を作成しており、職員がどの役割で動くのかやどうやってその日の活動を進めていくのかなどを記載して職員に配布し、動きの確認などを行っている。	
	23	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			引継ぎなどは次の日の午前中などを使って振り返りをしたり、当日の連絡事項などを行っている。	
	24	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			その日の支援についてはその日中に必ず記録し、記録した職員でない者が読んで正しい記録になっているのか確認している。	
	25	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			6ヶ月に一度はモニタリングを行っている。また、定期的に現段階の目標や支援内容に沿った支援ができていないのか確認しながら療育を提供している。	
	26	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			活動内容を検討する際にもガイドラインに沿った活動になっているのかや利用曜日などに偏りがないように配慮しながら組み合わせている。	
	27	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	○			視覚支援なども近いながら個々に合った選択肢を工夫している。	
関係機関や保護者との連携	28	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画している地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			所長（児発管）が参加している。	
	29	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			医療機関は対象児がいらないが、教育機関等とは連携に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			学校からの手紙やFAXで下校時間などは知らせて頂いている。また、その日の様子なども送迎時に引継ぎをしてもらっている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか	○			児童発達支援事業所との連携に努めている。また、就学前の相談支援事業所とも連携出来るようになってきている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			小学生的みの事業所であるため該当しない。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			専門機関の研修にも積極的に参加しており、連携にも努めている。	今後はさらなる連携に努めながら、状況に応じて助言などもいただいきたい。
	34	代表（所長）が参加している。	○				今後の課題として検討していく。
	35	活動時の様子は各自スマートフォンまたはPCで確認してもらい、その他連絡や引継ぎが必要な場合は送迎時に伝えている。また、モニタリングの機会にも事業所と家での様子を共有しながら共通理解に努めている。	○				
	36	保護者からの相談があった際や、モニタリング時には保護者の方と一緒に子どもさんの現状把握を行いながら、今必要な支援や関わり方などを話せるようにしている。	○				保護者の方からの相談に対しては出来る限り対応しているが、相談がない場合にも困り事を引き出せるようにしていきたい。また、職員の（ペアレントトレーニングについての）研修などを取り入れていきたい。また、ご家族様が参加できる研修も開催予定を検討している。
	37	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				
	38	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○				
	39	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○				
	40		○				

保護者への説明責任等	41	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			6ヶ月に一度はモニタリングを行っているのでその際に家庭での困り事や悩み事などを聞けるようにしている。また、モニタリング時以外でも事業所内相談なども出来る体制を整えている。	
	42	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。			○		保護者向けアンケートで希望者が少しずつ増えてきているので今後は検討していく。
	43	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			法人内に苦情解決窓口を設置している。また、市や県の苦情解決窓口も契約時にご説明するとともに、事業所の出入口に張り紙をして保護者の方に周知してもらえるようにしている。	契約時には説明しているが契約して数年経った利用者も多いので事業所の出入口への張り紙だけでなく、保護者に知らせていく方法を検討していく。
	44	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			メールや成長療育支援システム(HUG)を使用し、保護者に発信している。	
	45	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			個人情報を取り扱う際には細心の注意をはかっている。また、書類などは全て鍵のかかる棚に保管している。	
	46	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			状況に応じた配慮をしながら意思の疎通や情報伝達を行っている。	
	47	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。			○	年に一度は地域の民生児童委員の方が事業所に訪問してもらい地域との情報共有に努めている。	地域住民の方を招待してイベントをするのは予算的にも難しい面がある。
非常時等の対応	48	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を	○			各事業所から委員会を発足し、適宜マニュアルを見直しと周知徹底に努めている。	
	49	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			年に2回は避難訓練を行ない、災害時に備えてのシミュレーションをしている。また、利用者にも消火器の使い方や避難の仕方、防災頭巾の着用方法なども体験してもらいながら知らせている。	
	50	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			契約時に確認したり、フェイスシートにも記載してもらっている。また、変更などがあった際にはその都度聞いている。	
	51	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			保護者から医師の指示を伝えてもらい、それに基づいて対応している。	
	52	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。			○	安全管理のために研修をしたり、十分配慮はしている。	
	53	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。			○		周知の仕方を検討していく。
	54	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			ヒヤリハットは記録に残しながら事業所内や法人内で共有している。	
	55	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			今年度も法人内で虐待についての勉強会や事例などをもとにグループで考えたりする機会を設けた。施設外の虐待防止の研修も受けている。	
	56	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			法人内で話し合っ決めていく。また、車いすなどの安全のためのベルトなどについては事前に保護者の方に説明した上で個別支援計画書の中にも記載してサインをいただいている。	